日本昔ばなし - 花咲かじいさん

動画リンク：https://youtu.be/IjukJAXKGz8?si=SzuLbkV2BPQxTm7u

今回は日本の昔ばなし「花咲かじいさん」を学びながら日本語を勉強しましょう。

この動画は、1部・2部・3部に分かれ、3段階のスピードで聴くことができます。
1部→2部→3部の順にスピードは速くなり、ふりがながあるのは1部のみです。
学習にお役立てください。

■はじめに
お話を始める前に、昔ばなし・童話・おとぎ話の違いについて少し説明します。

■昔ばなし
「昔ばなし」には、昔から語り継がれてきた話という意味があります。
語り継がれてきた話なので、作者が誰かはわかりません。

■童話
子供が読むことを前提に作られた物語です。
作られた物語なので、当然作者は存在します。

■おとぎ話
子供に語って聞かせるための昔ばなしや童話のことです。
「おとぎ話」の中には語り継がれてきた「昔ばなし」も、そして創作である「童話」も含まれます。

「花咲かじいさん」は「日本五大昔ばなし」のひとつとして、とても有名な日本の昔ばなしです。

それでは「花咲かじいさん」のお話を始めます。

昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

正直な人のいいおじいさんとおばあさんでしたが、子どもがいないので、飼っている犬のシロを本当の子どものようにかわいがっていました。

シロもおじいさんとおばあさんに、それはよくなついていました。

お隣にも、また別のおじいさんとおばあさんがいました。

このおじいさんとおばあさんは、とても欲ばりで意地悪な2人でした。

お隣のシロのことも良く思わずに、いつも意地悪なことばかりをしていました。

ある日、正直おじいさんが、いつものようにくわをかついで、畑を掘り返していると、シロも一緒に着いてきて

ここ掘れワンワン。
ここ掘れワンワン。
と鳴きました。

どうしたどうしたと、おじいさんは言いながら、そこにくわを入れてみると、かちりと音がして、穴のそこできらきら光るものがありました。

どんどん掘っていくと、お金がたくさん出てきました。

おじいさんはびっくりして、大きな声でおばあさんを呼んで、おばあさんと協力して、よっこいしょよっこいしょと、掘り出したたくさんのお金を家の中へ運び込みました。

正直おじいさんとおばあさんは、シロのおかげで、急にお金持ちになりました。

すると、お隣の欲ばりおじいさんが、それを聞いてとても羨ましがって、早速、シロを借りにきました。

正直おじいさんは、誰にでも優しく、人がいいので、欲ばりおじいさんにシロを貸してあげました。

欲ばりおじいさんは、嫌がるシロの首になわをつけて、ぐんぐんと畑のほうへ引っ張って行きました。

「おれの畑にもたくさんのお金が埋まっているはずだ。さぁ、どこだどこだ」と言いながら、もっと強くなわを引っ張ります。

無理やり強く引っ張られたシロは苦しがって、やたらにそこらの土をひっかきました。

欲ばりおじいさんは、「うん、ここか。よしよし。いい子だとシロ」と言いながら、掘り始めましたが、掘っても掘っても、出てくるものは、石ころや瓦の欠片ばかりでした。

それでもかまわず、やたらに掘り続けると、とても臭いニオイがして、汚いものがたくさん出てきました。

欲ばりおじいさんは「くさい」と叫んで、鼻をおさえました。

そうして、怒った欲ばりおじいさんは、腹立ちまぎれに、いきなりくわをふり上げて、シロの頭から打ち下ろすと、かわいそうに、シロはひと声「きゃんっ」と鳴き、死んでしまいました。

正直おじいさんとおばあさんは、シロのことを自分たちの子どものようにかわいがっていたので、とても悲しみました。

しかし、死んでしまったものは仕方がありませんから、涙をこぼしながら、シロの死骸を引きとって、お庭のすみに穴を掘って、丁寧に埋めてあげました。

埋めたあとは、お墓の代わりに小さな松の木を一本、その上に植えました。

するとその松が、みるみる育っていき、やがて立派なとても大きな木になりました。

「これはシロの形見だ」
こうおじいさんは言って、その松を切って臼をこしらえました。

そうして「シロはお餅が好きだったから」と言い、臼の中にお米を入れて、おばあさんと2人で「ぺんたらこっこ、ぺんたらこっこ」とつき始めると、不思議なことに、いくらついてもついても、あとからあとからお米が増えて、みるみる臼にあふれて、外にこぼれ出し、やがて台所いっぱいお米になってしまいました。

すると今度も、お隣の欲ばりおじいさんとおばあさんがそれを知って羨ましがって、また図々しく臼を借りにきました。

人のいいおじいさんとおばあさんは、今度もうっかり臼を貸してやりました。

臼を借りると早速、欲ばりおじいさんは、臼の中にお米を入れて、おばあさんを相手に「ぺんたらこっこ、ぺんたらこっこ」と、つきはじめましたが、お米がたくさんわき出すどころか、今度もすごく嫌なニオイがして、中からうじゃうじゃ汚いものがたくさん出てきました。

臼はあふれて、汚いものは外にこぼれ出しました。

やがて台所いっぱい、汚いものだらけになりました。

欲ばりおじいさんは、またかんしゃくを起こし、臼を叩き壊して、薪にして燃やしてしまいました。

正直おじいさんは、臼を返してもらいに行くと、灰になっていたので、とてもびっくりしました。

しかし、燃やしてしまったものは仕方がありませんから、がっかりしながら、ざるの中に残った灰をかき集めて、落ち込みながら家へ帰りました。

おばあさん、シロの松の木が灰になってしまったよ。

こう言っておじいさんは、お庭のすみのシロのお墓のところまで行って、持っていた灰をそこで撒きました。

そうすると、どこからかすうすうあたたかい風が吹いてきて、ぱっと、灰をお庭いっぱいに吹きちらしました。

するとどうでしょう。
そこらの枯れ木のまま立っていた、梅の木や桜の木が灰をかぶると、みるみるそれが花を咲かせたのです。

外はまだ冬なのに、おじいさんのお庭だけは、すっかり春の景色になってしまいました。

おじいさんは、手をたたいてよろこびました。

「これはおもしろい！ついでに、いっそあっちの木もこっちの木も咲かせてやりましょう」

そこで、おじいさんはざるに残った灰をかかえて、「花咲かじじい、花咲かじじい、日本一の花咲かじじい、枯れ木に花を咲かせましょう」と、楽しそうにあちこちの木に灰を撒きながら歩きました。

すると、向こうから殿さまが、馬に乗ってたくさんの家来をつれて、狩りから帰ってきました。

殿さまは、おじいさんを呼んで「ほう、めずらしいじじいだ。ではそこの桜の枯れ木に花を咲かせて見せよ」と言いつけました。

おじいさんは早速ざるをかかえて、桜の木に上がり「金の桜、さーらさら。銀の桜、さーらさら」と言いながら、灰を撒きました。

すると、みるみる花が咲き出して、やがてあたりいちめん、桜の花がたくさんきれいに咲きました。

殿さまはびっくりして「これは見事だ。これは不思議だ」と言って、おじいさんを褒めて、たくさんご褒美をくださいました。

するとまた、お隣の欲ばりおじいさんがそれを聞き、羨ましがって、残っている灰をかき集めてざるに入れて、正直おじいさんの真似をしました。

「花咲かじじい、花咲かじじい、日本一の花咲かじじい、枯れ木に花を咲かせましょう」と、あちこちに大きな声をあげながら歩きました。

すると今度も、殿さまが通りかかって「こないだの花咲かじじいがきたな。また花を咲かせて見せよ」と言いました。

欲ばりおじいさんは、得意そうな顔をしながら、灰を入れたざるをかかえて、桜の木に上がり、正直おじいさんの真似をしました。

「金の桜、さーらさら。銀の桜、さーらさら」と言いながら、やたらに灰をふりまきましたが、いっこうに花は咲きません。

そのとき、とても強い風が吹いてきて、灰は遠慮なしにあちらこちらへ、ばらばらばらばら散って、殿さまや家来の目や鼻の中へ入りました。

こっちの人もあっちの人も、目をこすったり、くしゃみをしたり、頭の毛をはらったり、それはもう大変な騒ぎになりました。

殿さまはとても怒って「偽物の花咲かじじいに違いない。ふとどきなやつだ」と言い、欲ばりおじいさんを家来たちにしばらせてしまいました。

欲ばりおじいさんは「ごめんなさい。ごめんなさい」と言いましたが、とうとう牢屋へ連れて行かれました。

日本昔ばなし「花咲かじいさん」は、いかがでしたか？

あなたの国の童話や昔ばなしをコメント欄から是非みんなに教えてください。

今後の動画制作に活かしますので、コメント欄から感想いただけると大変嬉しいです。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。

Japanese-listening-SUSHI